三鷹市立第　中学校　令和8年度 【外国語】 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○言語活動の際には、場面・状況・目的を意識して、学んだ表現を用いて活発に英語を話すことができた。 ○正しい発音やイントネーションで音読できるように、デジタル教科書の音声や教科書のポイントを教科書やワークシートに書きこみ、十分に練習ができた。 ○文法を定着させるため、ワークやワークシートを使って復習を行った。また、ライティングやスピーキングの単元末パフォーマンステストを実施して、学習の定着を図った。	○小学校時代に学んだ表現をアウトプットすることに抵抗が少なく、発話を意欲的にする生徒が多い。一方で英単語のスペルを正しく書けない生徒が少なくない。 ◎発話した内容を文字化し、正しいスペルを覚えられるよう、家庭学習で定着させる。 ○英文の書き方を繰り返し丁寧に指導し、ルールを守って書くことができるようになった。特に大文字、小文字やピリオドなどに気をつけられている。未だにbe動詞と一般動詞が混合している生徒が見受けられる。 ◎何度も繰り返し発話し、フィードバックをしてライティングにつなげて、定着させる。 ○毎時間の帯活動に取り入れている既習文法を復習する時のペアワークや、英単語の発音練習・英文の音読などに意欲的に取り組んでいる。	○長期休み後に実施するスペルテストなどの小テストを用いて、正しい英単語のつづりを身に付けさせる。 ◎単元の新出英単語をクラスルームに配信し、意味や発音に加えてスペルの確認をペアワークでさせ、デジタル教科書のフラッシュカードを用いて全体でも確認する。また、ライティングテストでも間違いやすい単語や表現などをフィードバックとして全体で共有し指導する。 ◎机間指導を行い、生徒の取り組みや発話内容・英文の書き方の指導を継続する。 ○三鷹市小・中一貫カリキュラムに則り、前時の復習として行っている言語活動が単元末パフォーマンステストにつながるように、場面・目的・状況を意識させて取り組ませる。 ○２学期以降も、発話量を増やし、表現力を豊かにできるように様々な意見や考えに触れ、学んだ知識を用いて自分の意見を適切に伝えられるよう授業計画をする。
第2学年	○会話や英作文の中で積極的に授業で学んだ表現を使うことができている。 ◎ペアワークやグループワークの活動では、お互いに助け合いながら課題に取り組み、理解を深めることができた。 ○文法事項の定着を図るため、各Unitのパフォーマンステストを実施した。既習文法も含めながら、話したり書いたりすることができた。	○三年生に向けて長文読解に慣れるために、読解のドリルを帯活動で取り入れた。質問の答えを３分以内に見つけることができ、読むスピードも早くなってきた。ただ、代名詞が何を指しているかを理解していない生徒もいる。 ◎パフォーマンステストを通して、目的・場面・状況を意識して自分の意見や考えを発話することができてきている。 ○文法事項と英単語を定着させるために、単元末小テストを実施している。単語は重要単語に絞り学習している。 ◎単元末小テストの回数を重ねるごとに、英単語のスペルを正しく書ける生徒が増えてきた。	○２学年終了時までに、即興で自分の意見と客観的な理由を発話することができるように、既習文法や単語を用いて発話練習や書く練習をくり返し行う授業を計画・実施する。 ○発話練習を繰り返し行う時に、既習文法や表現が頭に浮かび上がるくらいまで音読練習を本文を学習する時間とその次の時間にも計画する。 ○デジタル教科書にある音声も家庭学習で練習できるように授業内に指導し、３学期にあるESAT-J YEAR 2のパートAで成果がでるようにする。 ○文法事項や単語の定着をさせるために、音読練習に加えてワークや文法プリントで練習する。また、家庭学習が身についていない生徒も多くいるため、授業前に宿題の提出・確認をして家庭学習を定着させる。 ○2学期以降は、まとまった英文を読み、書かれた内容のうち必要な情報や要点を意識して読む力を伸ばしていく。
第3学年	○会話や英作文の中で積極的に授業で学んだ表現を使うことができている。 ◎ペアワークやグループワークを行い、授業中に助け合いながら課題に取り組み、理解を深めることができた。 ○文法を定着させるため、復習をワークやワークシートで行った。また、単元末パフォーマンステストを実施して学習の定着を図った。	◎まとまった英文を理解するために、単元の初回には単元全体を通してリスニング、リーディングをすることで、わからない単語があっても推測しながら要旨をつかむように理解することを練習している。 ○パフォーマンステストでは、発話内容をすべてを暗記するのではなく、教科書で学習した既習表現をうまく活用し、自分の意見や理由を伝えることができる生徒が増えた。ESAT-Jを意識し、その場で聞き取った内容を踏まえて発話する練習と実技試験も行った。 ◎振り返りシートで生徒が自身の学習状況を振り返り、定着できていない部分と、それを補う学習の工夫についての取り組みを把握している。	○帯活動のスピーキングでは、ESAT-Jの対策をしながら既習事項の復習をして活用できる表現を広げていく。 ○１，２年生の学習内容の定着に困難が見られる生徒が多いので、デジタル教科書付属の基本文確認form等を活用する。 ○デジタル教科書の音読機能や新出単語の学習方法を生徒にさらに詳しく提示し、家庭学習をより充実させる。 ○ESAT-J対策として、家庭学習でも音読をするように指導している。音読のポイントを伝える。 ○三鷹市小・中一貫カリキュラムを活用し、系統性を意識して重点を明確にした授業を計画する。 ○振り返りシートに書く内容を、できるだけ具体的にするように指導する。また、現在の課題をどのようにしていくのか生徒に考えさせる。 ◎長文読解と英作文に苦手意識がある生徒が多いので、副教材を活用し、普段の授業から初見の英文をさらに読み取る練習をする。また過去問を活用し、英作文の練習を繰り返す。